

対馬市 18年度決算の概要をお知らせします

昨年12月の市議会定例会で平成18年度の決算が承認されました。
みなさんが納めた税金や、国、県からの補助金などがどのくらい入って、どのように使われたのか一般会計を中心にお知らせします。

平成18年度の一般会計の歳入は、375億1,610万円、歳出は、365億7,440万円となっています。

歳入・歳出差し引きは9億4,170万円です。平成19年度へ繰り越した事業の財源となる7億1,920万円を除いた2億3,978万円が実質の黒字額となります。
歳入、歳出額を前年度と比較すると、それぞれ24億5,358万円（7・0％）、21億4,719万円（6・2％）の増となりました。

歳入

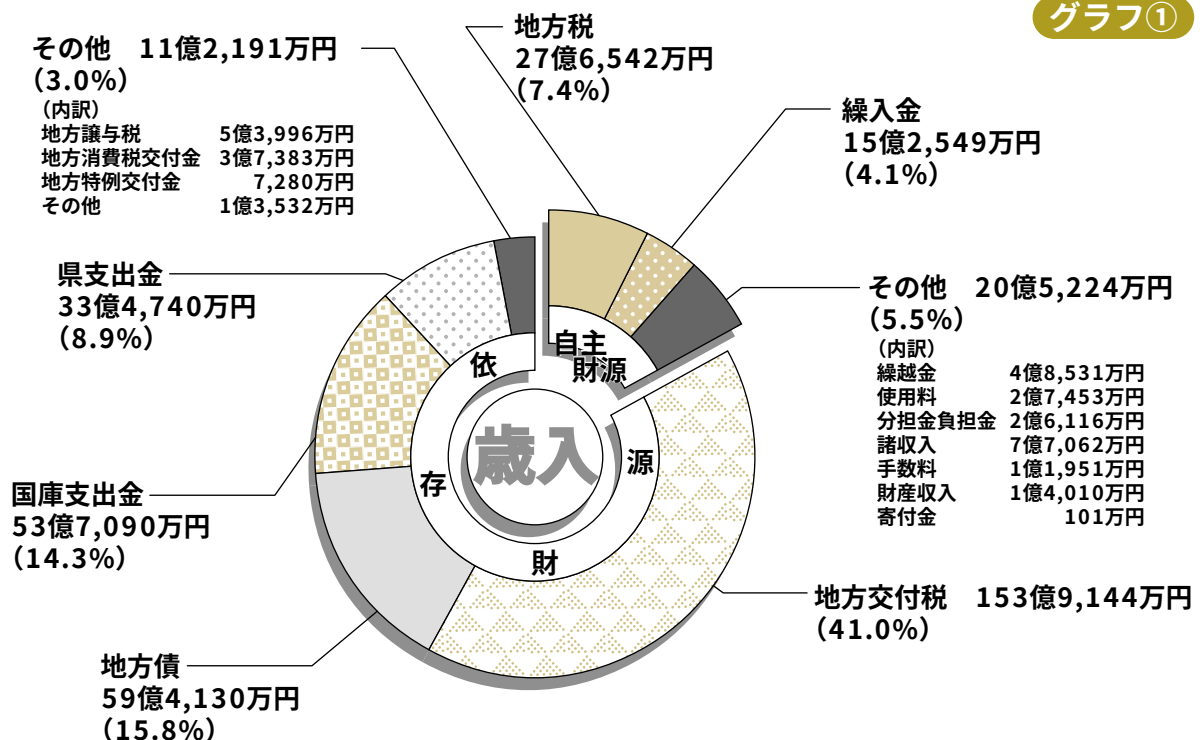
■歳入の4割は地方交付税

一般会計の歳入（グラフ①）は、市税や使用料などのように市が自主的に収入することができ、**自主財源**と、地方交付税や国・県支出金など国や県の意思により定められた額を交付される財源（**依存財源**）に分けられます。自主財源が多いほど市の自主性と安定性が確保されます。

対馬市の自主財源は63億4,315万円（17・0％）で、なかでも収入の柱であるべき**市税**は27億6,542万円（7・4％）にとどまっております。市民一人あたりでみる

と7万3千円となっています。
依存財源では、**地方交付税**が153億9,144万円（41・0％）で最も大きなものです。次いで**市債（借金）**59億4,130万円（15・8％）、**国庫支出金**53億7,090万円（14・3％）、**県支出金**33億4,740万円（8・9％）の順となっています。
また、歳入はどのような経費にも使用できる一般財源と、使い道が特定される特定財源とに分けられます。一般財源の主なものは市税、地方譲与税、地方交付税で全体の60・1％を占めています。

グラフ①



平成18年度 主な事業

(表①)

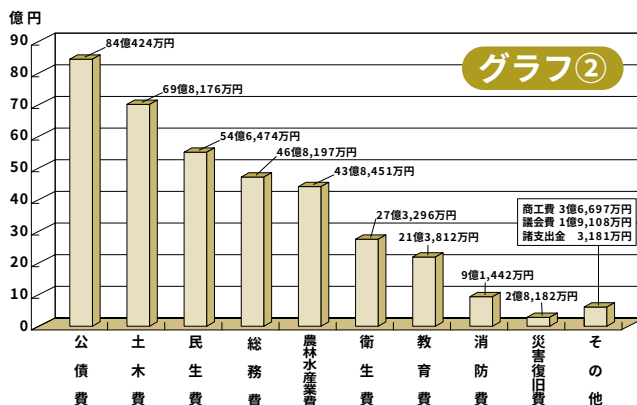
公債費	市債元金(72億4,727万円) 市債利子(11億4,802万円)
土木費	道路整備(13億8,143万円)、港湾関連施設整備(1億5,403万円)、市街地再開発事業(24億3,703万円)、公営住宅整備改修(1億5,560万円)
民生費	障害者医療費(5,277万円)、社会福祉協議会補助(1億2,805万円)、民生児童委員協議会補助金(1,022万円)、保育所運営(9億6,382万円)、生活保護費(12億6,465万円)
総務費	広報発行事業(1,014万円)、市民球団(865万円)、バス路線補助(1億2,186万円)、地籍調査(3億1,317万円)、対馬金山国際航路利用促進補助(557万円)、CATV施設整備事業(6億7,135万円)、移動通信用鉄塔整備事業(1億1,210万円)
農林水産業費	有害鳥獣被害防止対策事業(4,775万円)、林道整備(2億1,231万円)、漁業近代化資金利子補助金(1,629万円)、漁港整備(24億4,692万円)、離島漁業再生支援交付金(3億2,137万円)
衛生費	浄化槽設置補助(5,192万円)、し尿汚泥運搬処分業務(3,780万円)、溶融飛灰資源化処理委託事業(2,757万円)
教育費	離島留学生ホームステイ費補助(486万円)、内山スクールバス購入事業(259万円)、スポーツ活動振興費補助(774万円)
消防費	対馬市分会補助金(408万円)、防災行政無線自動プログラム送出装置取替業務(268万円)、消火栓設置事業負担金(2,003万円)
災害復旧費	道路災害(8,973万円)、河川災害(9,710万円)、林業施設災害(3,772万円)
商工費	湯多里ランド設備改修(263万円)、茂木浜海水浴場整備(2,000万円)
諸支出金	温泉施設用地取得造成事業(2,877万円)

歳出(目的別)

借金返済に84億円

使われたお金を目的別(グラフ②)に分類すると、建設事業等を行うときに借り入れた市債の償還金である公債費がトップで84億424万円、次いで土木費69億8176万円、民生費54億6474万円、総務費46億8197万円の順となっています。

目的別の主な事業は表①のとおりです。



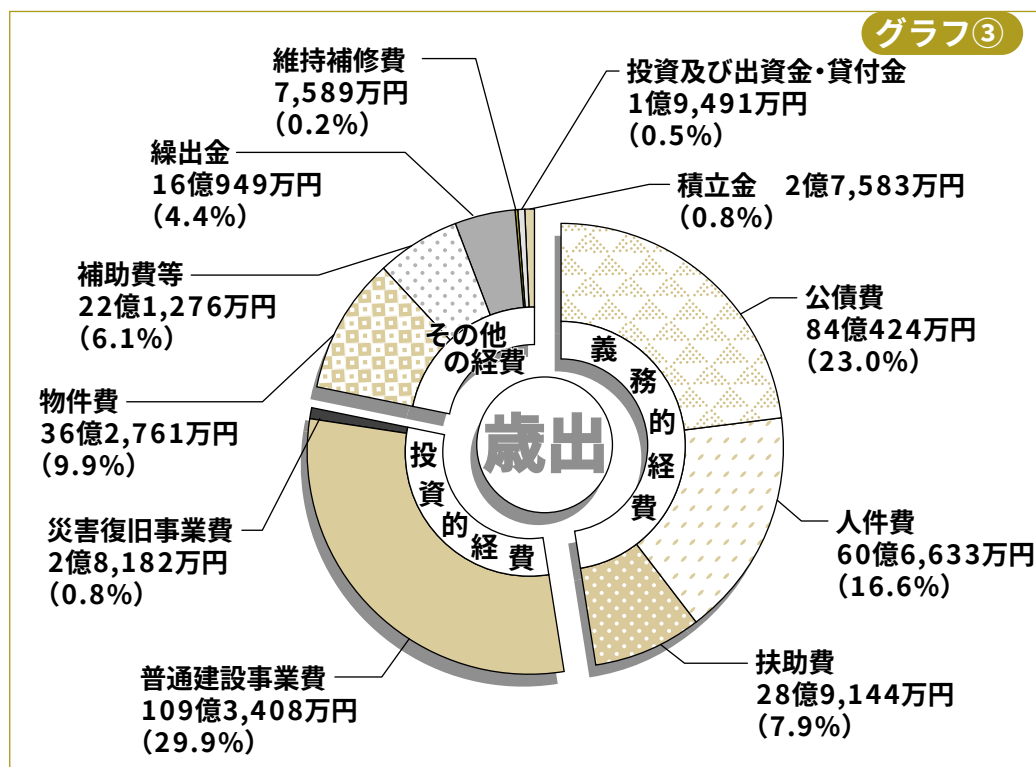
歳出(性質別)

歳出総額の4割を超える

義務的経費

使われたお金を性質別(グラフ③)に分類してみますと、法律により市の判断で自由に増やしたり減らしたりできないお金(義務的経費)があります。

生活保護費などの福祉関係経費や、職員の給料、借金返済のための公債費などがこれに当たります。対馬市ではこの義務的経費が173億6201万円で全体の47・5%を占めています。



占めています。この比率が大きいほど財政健全化を図る場合の大きな障害となります。建設工事など将来に残るものに支出される投資的経費は112億1590万円で全体

の30・7%を占めています。光熱水費、旅費、通信運搬費などの物件費は36億2761万円、各種団体への補助金などの補助費等は22億1276万円となっています。

基金

基金（表②）とは貯金のことで、市には、財政事情の変動や災害などにより財源不足が生じたときに不足額をおぎなうための財政調整基金、市債（借入金）の償還の財源に充てるための減債基金、公共施設整備の財源に充てるための振興基金、その他特定の目

的のために使う各種基金があります。基金全体での18年度末残高は、前年度末より約11億円減って45億6349万円となっています。

市債

公共施設や道路を整備するための借入金を市債（表③）といいます。

18年度は59億4130万円を借り入れましたが、そのうち合併後10年間借り入れることができる合併特例債は、32億1790万円でした。合併特例債を活用した事業は（表④）のとおりです。

市債の18年度末残高は、前年度末より約13億円減少し約629億円となっています。

特別会計・企業会計の決算

特別会計・企業会計とは、特定の事業を行う場合、その事業だけに特定の収入を充てるため一般会計と区別している会計です。特別会計・企業会計の決算の状況は（表⑤・1、2）のとおりです。

基金の状況（一般会計）

（表②）

名 称	17年度末現在高	18年度末現在高	増減額
◎財政調整基金	7億1,238万円	5億3,100万円	△1億8,138万円
◎減債基金	13億7,918万円	7億3,125万円	△6億4,793万円
◎振興基金	8億 580万円	5億5,800万円	△2億4,780万円
◎まちづくり基金	10億 円	10億 円	0
◎高齢者福祉基金	8億6,230万円	8億6,230万円	0
◎土地開発基金	8億1,400万円	8億1,400万円	0
◎その他の基金	8,949万円	6,694万円	△2,255万円
合 計	56億6,315万円	45億6,349万円	△10億9,966万円
1人あたりの基金(積立金)の残高	15万円	12万円	△3万円

市債の状況（一般会計）

（表③）

名 称	17年度末残高	18年度末残高	増減額
市債年度末現在高(一般会計)	642億 666万円	629億 69万円	△13億 597万円
1人あたりの市債(借金)の残高	165万円	165万円	0万円

合併特例債活用事業

（表④）

事 業 名	合併特例債額
今屋敷地区市街地再開発事業	21億2,200万円
CATV施設整備事業	8億2,270万円
峰港湾関連施設整備事業	1億9,000万円
まちづくり交付金事業	1,090万円
中村地区街なみ環境整備事業	740万円
県営急傾斜地負担金	2,650万円
県営道路整備負担金	2,420万円
県営港湾負担金	1,420万円
合 計	32億1,790万円

特別会計決算状況

（表⑤-1）

会 計 名	歳 入	歳 出	差 引
診療所 特別会計	2億 633万円	1億9,448万円	1,185万円
公共用地先行取得 //	5億4,927万円	5億4,927万円	0
国民健康保険 //	52億1,858万円	51億9,590万円	2,268万円
介護保険地域支援 //	9,072万円	8,761万円	311万円
老人保健 //	39億4,190万円	39億4,126万円	64万円
介護保険 //	27億6,780万円	26億3,556万円	1億3,224万円
特別養護老人ホーム //	4億8,849万円	4億7,842万円	1,007万円
簡易水道事業 //	13億3,627万円	12億8,809万円	4,818万円
集落排水処理施設 //	1,458万円	1,376万円	82万円
旅客定期航路事業 //	3,832万円	2,954万円	878万円
風力発電事業 //	3,828万円	3,537万円	291万円
合 計	146億9,054万円	144億4,926万円	2億4,128万円

企業会計(水道事業)決算状況

（表⑤-2）

区 分	金 額
収 益 的 収 入	2億4,642万円
収 益 的 支 出	2億2,681万円
資 本 的 収 入	2億5,396万円
資 本 的 支 出	2億9,683万円

※資本的収入に対して支出で不足する4,287万円は当年度損益勘定留保資金などから補てんしました。

しま自慢研究会が「対馬版さるく博」を実施

八十八ヶ所、ミカン狩りなど豆酥の宝に触れる



山道を進み八十八ヶ所を参拝する参加者

しまの活性化を担う観光のプロを育成するながさき「しま自慢観光カレッジ」の卒業生たちでつくる「しま自慢研究会」が12月9日、厳原町豆酥地区で「対馬版さるく博」を開催しました。

「対馬の活性化へ向けて挑戦しよう」との思いから、街歩き博覧会として成功したながさき「さるく博」にならい交流型・町興しプログラムとして企画・実施したものです。

「対馬版さるく博」には、市内から高校生や大人、子どもなど約60名が参加。同地区内にある八十八ヶ所を巡るコースには約30名が参加し、金剛院裏山の八十八ヶ所を約2時間かけてお参りしました。

その他では、郷土料理の豆酥雑煮を作って味わうコースやミカン狩りを体験するコースなどが実施され、豆酥地区特有のいろいろな「宝」に実際に触れ、参加者は楽しい一日を過ごしました。

同会の松村信彦代表は、「初めてのイベントにたくさんの人が来てくれてよかった。今後も定期的によりよいツアーを行っていきたい」と話していました。なお同会では、毎月22日を「豆酥の日」と定め、同地区で様々なイベントを行っていく予定とのことです。



まぐろの解体ショーを興味深そうに見つめる来場者

対馬が誇るブランドマグロ「トロの華」を市民に広く知ってもらおうと、12月2日、美津島町尾崎の養殖業者でつくる「トロの華」生産者協体が「まぐろ祭り」を開催しました。

会場の美津島町漁協尾崎支所では、丸々と太った重さ約40kgの「トロの華」が関係者により手際よく解体され、刺身にして来場者に振る舞われました。身が締まり脂の乗った新鮮な「トロの華」を食べた来場者は口々に「おいしい」と顔をほころばせ、何度も試食コーナーに足を運んで試食を繰り返すなど人気を集めていました。

また養殖いけすで実施された餌やり体験では、重さ約30kgのまぐろが700匹養殖されている直径40mのいけすに横付けされた船の上から、参加者が餌の鰯を投げ入れました。巨体を浮上させ一気に餌を丸呑みにするマグロの迫力にみなさん歓声を上げていました。一方販売コーナーでは、「トロの華」が激安価格で販売され飛ぶように売れていました。

美津島町尾崎で「まぐろ祭り」

対馬産養殖本マグロ「トロの華」に舌鼓

人事異動

◎1月1日付異動

※氏名後の（ ）内は旧所属

【市長部局】

《福祉部》【福祉課】（特別

養護老人ホーム浅茅の丘

▽所長 三山登志郎（同

部保護課・昇任）【保護課

▽主任 松村浩二（保健

部保険課

《建設部》▽部長（管理課

長事務取扱 川上司（同

部長）

【教育委員会事務局】

▽教育部長 日高一夫（教

育次長・補職名改正）▽

次長兼総務課長 近藤義

則（総務課長・昇任）

◎12月31日付退職

▽神宮照一（特別養護老

人ホーム浅茅の丘所長）

▽飯塚実（建設部管理課長

▽阿比留清子（特別養護

老人ホーム浅茅の丘）

▽財部恵子（鶏鳴幼稚園）

第47回 対馬縦断駅伝大会

団体…陸上自衛隊が22連覇！
女子…美津島町が4連覇！



比田勝港からのスタート風景



トップでゴールする
美津島町女子チーム



優勝した陸上自衛隊チームの皆さん

対馬の年末を飾る一大イベント、第47回対馬縦断駅伝大会(対馬市体育協会主催)が12月16日に開かれ、各町や団体から出場した149名の選手たちが比田勝港から厳原までの91.4kmを13人でタスキを繋ぎました。

男子の部(8区間・79.1km)には町体協の部に6チーム、団体の部に7チームが出場。女子の部(5区間・12.3km)には、各町体協と市内の3高校から9チームが参加しました。

例年厳しい寒さに見舞われる大会ですが、今年は温かく風もない絶好のコンディションとなり、多くのチームが昨年の記録を上回る

成績を残していました。

団体の部では、8区間中4区間を制した陸上自衛隊Aチームが今年も優勝し、見事大会22連覇を達成しました。監督の内山徳博さん(53)は、「4区の走り(日高久朋さんが区間新記録をマーク)が一番の勝因。プレッシャーもあったが優勝できて嬉しい」と話し、選手一同喜んでいました。2位は昨年同様上対馬高校で、昨年の記録を10分以上更新するなど健闘しました。また、町体協の部では、上対馬町が4年ぶりに優勝。女子の部では美津島町が4年連続優勝を果たしました。

【大会結果】(敬称略)

《男子…団体の部》

- ①陸上自衛隊A 4時間29分08秒
- ②上対馬高校 4時間34分33秒
- ③陸上自衛隊B 4時間50分19秒
- ④対馬高校 4時間51分9秒
- ⑤豊玉高校 4時間58分35秒
- ⑥市消防本部 4時間58分42秒
- ⑦航空自衛隊 5時間5分13秒

《男子…町体協の部》

- ①上対馬町 4時間55分52秒
- ②厳原町 4時間56分14秒
- ③美津島町 4時間57分37秒
- ④上県町 5時間2分28秒
- ⑤豊玉町 5時間9分34秒
- ⑥峰町 5時間23分52秒

《女子》

- ①美津島町 44分49秒
- ②上対馬町 44分55秒
- ③対馬高校 45分27秒
- ④豊玉町 46分59秒
- ⑤厳原町 48分41秒
- ⑥上県町 48分57秒
- ⑦豊玉高校 49分59秒
- ⑧峰町 50分3秒
- ⑨上対馬高校 52分29秒



10区(仁位)→
11区(浦底)でのリレー



選手を応援する沿道の市民

【区間賞】(1区・10.4km)

- 守永健太(陸自A) 37分1秒
- 【2区・8.2km】辻庄太(上対馬高校) 28分5秒
- 【3区・11.4km】依屋義雄(上対馬) 39分5秒
- 【4区・12.0km】日高久朋(陸自A) 37分46秒
- 【5区・2.5km】山崎唯(上対馬) 8分48秒
- 【6区・2.1km】金成育実(対馬高校) 7分13秒
- 【7区・2.7km】中野ちひろ(対馬高校) 10分29秒
- 【8区・2.5km】八坂瑞翔(美津島) 8分50秒
- 【9区・2.5km】川上綾香(美津島) 8分29秒
- 【10区・6.0km】阿比留航輝(豊玉高校) 20分58秒
- 【11区・10.6km】川上朋弘(陸自A) 36分4秒
- 【12区・8.7km】寺田長寿(陸自A) 29分46秒
- 【13区・11.8km】阿比留勇次(美津島) 39分52秒

防犯少年武道大会 市内から301名が参加



12月9日、シャインドームみねを会場に平成19年度対馬市防犯少年武道大会が開かれました。青少年の健全育成と非行の未然防止を目的として、対馬市防犯協会連合会が主催したものです。

以前は、南北の地区防犯協会で別々に開催されていましたが、昨年から会場を一つにして開催されています。

今大会には、市内で剣道、柔道に励んでいる小・中学生と高校生の合わせて301名が参加。勝利を目指して熱戦を繰り広げました。

〔大会結果〕（敬称略）

剣道

○団体

▽小学生①厳原少年剣道部
A②久田少年剣道部③大調少年剣道部

▽中学生①厳原中学校剣道部
A②久田中学校剣道部
③佐護中学校剣道部

○個人優勝

▽小学生男子①波田凌二
（豊玉少年剣道部）▽同女子
②豊田奈央（護道会）

▽中学生男子①田崎裕介（厳原中学校剣道部）▽同女子
②天野真歩（厳原中学校剣道部）

▽高校生男子①中村貴之介（対馬高校剣道部）▽同女子
②小田友貴（対馬高校剣道部）

柔道

○団体

▽小学生低学年①健心会A
②健心会B③玄武会A▽同
高学年①健心会C②玄武会

③健心会A▽中学生①健心会②玄武会

○個人優勝

▽小学生低学年①内山松太朗（健心会）▽同中学年①
早田光（玄武会）▽同高学年
②武藤仙太郎（健心会）▽中
学生①平間瑞基（健心会）

美津島町少年の主張大会・中学生英語発表会



英語発表を行う今里中学校

12月2日、美津島文化会館で美津島町少年の主張大会・中学生英語発表会が開催されました。

少年の主張大会には各学校から小学生の部に7名、中学生の部に8名が参加。約200人の聴衆を前に堂々と発表しました。中学生英語発表会では、難知今里、大船越の3校が参加し、限られた時間内で工夫を凝らした発表を披露しました。

少年の主張 入賞者（敬称略）

○小学生の部

最優秀賞 小茂田明日花（北部小5年）
題名【妹が教えてくれたこと】
優秀賞 大津脩矢（大船越小6年）
題名【大好きな対馬】
奨励賞 萩原 遼（鶏鳴小6年）
題名【「言葉の花」を咲かせよう】

○中学生の部

最優秀賞 中村智晴（難知中2年）
題名【ルールがつながる人と人】
優秀賞 川上綾香（難知中1年）
題名【努力の大切さ】
奨励賞 西川桃華（大船越中1年）
題名【友情の階段】

対馬で初めての2台ピアノコンサート 厳原町の音楽教室「GEM」が開催



厳原町の音楽教室「ミュージックスクール^{ジェム}GEM」によるコンサートが12月9日、対馬市交流センターで開かれました。

第1部では同スクールで指導を受けている「GEMっ娘」たちによるピアノ演奏や合奏・合唱等が披露され、第2部では長崎大学教育学部の副学部長で、ピアニストの堀内伊吹さんと「GEMっ娘」が対馬初の2台ピアノコンサートで共演しました。

子どもたちの発表や、ピアノの息のあった音色に、会場に集まった約600名の観客からは盛大な拍手が送られていました。

水害を想定しボランティアセンター設置訓練 災害ボランティア活動体制づくり実働研修会

12月5日、対馬市社会福祉協議会(豊玉町仁位)で、災害ボランティア活動体制づくり実働研修会が実施されました。地震や台風など大規模災害が発生した場合に、被災者の救援や被災地の復旧活動を行う拠点となる災害ボランティアセンターについて理解を深めてもらおうと対馬市社会福祉協議会が主催したものです。

研修会には、対馬各地でボランティア活動を行っている市民や、民生委員、消防・行政関係者など約40名が参加。全国で防災・減災について講演活動を行っているNPO法人「レスキューストックヤード」の栗田暢之さんの指導のもと、同センターの果たす役割や設置方法についての講義や実際に災害ボランティアセンターを立ち上げる演習を行いました。

大規模な水害が発生したとの想定で行われた災害ボランティアセンターの立ち上げ演習では、センター運



災害ボランティアセンターの設置演習で、ボランティア役に被災者ニーズを説明するセンター役の参加者

営役とボランティア役に分かれ、それぞれの立場を模擬体験しました。センター運営役のグループは被災者の支援ニーズを的確に伝え、速やかな救援活動が行えるよう熱心に意見を出し合いながら運営方法に様々な工夫を加えていました。また、過去に災害を受けた方等の自宅を訪問し、被災状況や支援ニーズの聞き取り調査も行われました。



夕暮れ時は早めにライトをつけましょう

年末の交通安全県民運動(12月16日～12月25日)に合わせ、12月19日に峰町佐賀のハートランド前で交通安全キャンペーンが実施されました。参加した交通安全協会や母の会のメンバーたちは、行き交うドライバーへ交通安全グッズやチラシを配布し、安全運転を呼びかけました。

夕暮れが早い冬の時期、車の存在を知らせるヘッドライトを早めに点灯し、事故を防止しましょう。

シリーズ「人権教育総合推進地域事業」の取組 その⑦ 人権講演会「こけ枝の ほのぼの人権嘸」開催

11月24日(土)、落語家の桂こけ枝さん^しの人権講演会が、対馬市公会堂で開催されました。

こけ枝さんのユーモアあふれる語り口の中にも、ご自身に先天性股関節脱臼という障害があり、いじめや不登校などの実体験に基づいた話に、参加された方々は楽しみながら、人権の本質について考えを深めたようでした。

【参加者の感想】

＊部活などでついつい下の人を見て優越感に浸ったりしていたような気がします。今日の桂さんの話はとても勉強になりました。こけ枝さんのような謙虚さを持った人になりたいです。

＊「人権」という言葉を難しくとらえがちの人が多く、なかなか人権教育も積極的に進まないように思います。今回のような身近な話を対馬全島の方や子どもたちに聞いてもらいたいと感じました。

＊笑う大切さが今話題になっているが、その通りだと思う。心の解決なくしては解決なしということが、よく理解できた。みんなが笑顔で生活できる世の中が実現できるように努力していきたい。

＊人が本来持っている「思いやり・優しさ・配慮」、これを一人ひとりが表現できると、楽しい学校・社会になると思います。今日聞いた話を少しでも生徒に伝え、共有したいです。

＊「一人ひとり違う」当たり前のことなのに、忘れそうなことを再確認しました。



講演を行うこけ枝さん